

林檎

岩手Mac友の会

Vol.6, No.4 1994.11.19

Iwate Macintosh Funclub

MMM開催

今年もMMMが開催されました。今年例年と違って「東北ユーザーグループ・コンファレンス」として開催することとして、アップル社のユーザーグループサポートを通じて東北地域のユーザーグループに案内を出しました。

その甲斐あって、弘前、大曲（田沢湖）、山形と沢山集まっていただき、賑やかなものになりました。

常連の佐藤圭さん、諏訪茂男さん、川村渴真さん、も元気な顔を見せてくれました。

アップルからは、いつもの吉川さんが所属が変わったため参加いただけませんでした。青山さんがいらしてSystem 7.5の紹介をしてくれました。Macintosh 8100と630もお借りしました。ありがとうございました。

吉川さんにはお世話になりっぱなしでしたから今までのご好意にお礼を申し上げるとともに、新しい部署でのご活躍をお祈りします。

ちなみに吉川さんはどこのUGの人と慶事なそうです。IMFでないのが残念です。

ともあれ、おめでとうございます。お幸せに。

MMMの詳しい内容は、2面以降に特集で掲載していますのでそちらをご覧ください。

MMM協力者

今回のMMMも皆さんの協力で盛会でした。会場の情報は長土居さんからいただきましたし案内葉書は工藤聡さん、受付は、工藤さんと笹川さん、機材の運搬と会場設定には藤村さん、プロジェクトの提供（運搬からセッティングまで）はもちろん白石さん、マックの手配は、アップルの青山さん、木津屋の杉村さん、千葉さん、そして都合でMMMに参加できないのに準備作業の手伝いにいらしていただいた土村さんなどの皆さんに感謝いたします。

もちろん、貴重な事例を紹介いただいた発表者の皆さん、遠くから参加頂いた各UGの方々、常連の方々、初めて参加の方々、会を盛り上げていただいて感謝致しております。

都合で参加できなかったかたは残念でしたが、来年は参加できることを祈ります。開催直後はテンションが上がっていて「来年も開催するぞ!」と思うのですが、年が明けると億劫になるのですよね。これが。

MMMが終わると次の楽しみは忘年会ですね。幹事を募集しています。

それから最近感じるのはマックのソフトの値段が下がってきていることです。それだけマックが世の中に出回ってきているということでしょうか。

ソフトが安くなると違法コピーも減ってますます価格が下がるという良循環が起これば、ユーザーにとって幸せな世の中になると思います。

さ、次号（来年）にはどんな製品が登場するか！楽しみですね。



Inside

MMM特集 (1)	2
MMM特集 (2)	4
エッセイ	6
山の花	7
私の Mac Life	8
ブラジル紀行記 (2)	10
水虫を直しませんか?	12
林檎ギャラリー	14
編集後記	15
会員名簿	15
掲示板	16

<プログラム>

- 13:00 ~ 13:30 参加者受付
- 13:30 ~ 13:45 開会 各UG代表挨拶
青山 雅博(Apple) 古澤 幹彦(AtA)
川村 湯真(JHUG) 新田 康久(AAC)
諏訪 茂男(MIX) 大石 正(MUGY)
野村 行憲(IMF)
- 13:45 ~ 14:05 各UGの活動報告
小山 博康(AtA) 榊原 誠(MUGY)
新田 康久(AAC) 野村 行憲(IMF)
- 14:05 ~ 15:35 活用事例/研究事例発表
- (1) 思考支援コンピュータを創る
(MacUser連載中) 川村 湯真
 - (2) Macintoshによる作曲の事例
盛 謙司(AtA)
 - (3) QuickTimeムービー
榊原 誠(MUGY)
 - (4) AppleTalk上でPostScript printerと
QuickDraw Printerを同時に使う場
合のFont切り替え問題の工夫
高島 浩一郎(IMF)
 - (5) Macintoshによる小学生のためのワ
ードプロ検定合格法
徳富 亘(IMF)
 - (6) ローカルエリアとコンピュータ
長土居 正弘(IMF)
- 15:35 ~ 15:45 休憩
- 15:45 ~ 16:15 アップル社新製品の紹介とデ
モ (System 7.5, Macintosh LC630)
青山 雅博(Apple)
- 16:15 ~ 16:30 情報交換
16:30 閉会
17:00 ~ 19:00懇親会 (第5会議室)



▲IMFにおけるユーザー会の活
動報告をする野村会長。
功勞により胴上げ間近か？。

10月22日、岩手県自治会館で行わ
れた1994年TGUは、山形、秋田、岩
手、青森の4県にまたがる会合となっ
た。出席者は39名を予定し、本コン
ファレンスの中心となった岩手Mac友
の会(IMF)からは最多の出席者。IMF
会長の野村行憲さんにより、13:30、
開会が宣言される。Apple社の青山雅
博さんの挨拶に続いて、弘前
Macintoshユーザー会 Apple the Apple
(AtA) 会長の古澤幹彦さん、Akita
Apple Club (AAC) の新田康久さん、
日経MIXの諏訪茂男さん、山形
Macintoshユーザー会 (MUGY) 会長
の大石さんらの挨拶。その概要・発足
など聞くと、各々その創成期に、何ら
かの形でショッパが関わったものが多
かったようだ。

プログラム2：各ユーザー会の活動
報告。

AtAから：小山博康さん。
会員は30数名であり、今年から会報
を作成している。ショッパとの距離を
敢えて置いていることもあり、やや活
動に苦勞があるとのこと。

AACから：新田さん
発足は90年。ビジネスユーザーが多
い。例会でファイルメーカーを取り上
げたりする。関心はビジネスユースの
実情についての情報交換。会員には
CADユーザーも居る。パソコン通信
をしている人が少ないため、新田さん
がPDSをダウンロードし、会員に紹介
している。会員数は20名を超えた。

MUGYから：榊原 誠さん
年に2回、合宿ミーティングを行っ
ており、会報も発行している。メン
バーは60名(実働30名)。会の出発
点は、いわゆるコンピューターフリー
クからであったが、最近初心者も増え

ている。情報交換はMUGYが運営す
る「まほろば」ネットワークで行って
いる。最近の興味はインターネットの
他、アマチュア無線によるネットワ
ーク。ために、無線の免許を取るのが
ちょっとブーム。例会は今度のミー
ティングで30回を数えるという。

IMFから：野村さん

86年、Macintosh Plusを64万円で購
入したのが個人的なきっかけとなり、
岩手医科大学の医師との交流から会が
発足した。まだ雑誌もなかったため、
情報の共有が貴重だった。また、旗揚
げ時には外国人の会員も多かった。当
時は「Macが趣味」というユーザーが多
かったが、最近は裾野が広がったた
め、話題に困ることもある。色々な人
が集まる会なので、一つの話題に固ま
らないように気をつけている。会報
は、以前は2カ月に1回発行していた
が、3カ月に1回になったりしてい
る。中古のMac本体にモニター無しで
通信ホストに活用している。

プログラム3：活用事例

思考支援コンピュータをつくる：川村
湯真さん。

現在、MacUserに連載を執筆中。題
は、「オブジェクト志向型のコン
ピュータ」について。コンピュータの
新しい環境として、「情報」というも
のを「ソフトウェア」と切り放し、よ
りユーザーに近い物として捕えよう
というもの。コンピュータとユーザーと
の現状はComputer oriented systemが中
心だが、最終的にはInformation
oriented、Human orientedなものになる
だろう。自分が書いた本が現実となる
のは10年先かもしれないが、誰かが
実現してくれると思っているとの弁。

Macintoshによる作曲の事例：AtAの盛賢司さん。

大風邪をひいていて、箱ティッシュを傍らに置いての発表。Macで音楽をやる、というのはどういうことか、についてが



▲盛賢司さん

おもな論題。3枚綴りのハンドアウトを準備し、オリジナル曲のフロッピーを持参。Macで音楽をする利点は、何と言ってもその「自動筆記」能力にあり、また、直感的なインターフェースも良い。98ユーザーはえてして音楽を数字で語るが、音楽とは本来そういう物ではないのでは。

(持参データは、15:00のコーヒーブレイクの際の演奏となり、好評を博す。)

Apple Talk上でQDプリンタとPSプリンタを共存させる法：IMFの高嶋さん。

医局に当初Laser Writter Select 300をQuickDrawプリンタとして導入したもの、後に購入したリコー



▲高嶋浩一郎さん

のPSプリンタ(SPIOPS)をApple Talk上に共存させているため、TTフォントとPSフォントが混在する問題が発生。お金のかかる解決法は避け、様々な試行錯誤を経て、最終的にはRes EditでFONDリソースを書き換えて問題を回避している。(表「フォントの置き換え一覧」参照)

フォントの置き換え一覧 (By 高島)

システムに付いて来たフォント	outline font		Printer		私の置換
	TT	ATM	Adobe純正	リコー	
Osaka(アップル)	Osaka			X	(ゴB)
細明朝体(NTX-J用)			?	(明L)	(明L)
中ゴ体 *			?	(ゴM)	(ゴM)
リュウL(モリサワ)	リュウL	リュウL	リュウL	X	(明L)
中ゴ *	中ゴ	中ゴ	中ゴ	X	(ゴM)
*		太ミン	太ミン	(明B)	
*		太ゴ	太ゴ	(ゴB)	
*		じゅん	じゅん	(丸GL)	
丸ゴM(リョービ)	丸ゴM		?	X	(丸GL)
本明朝-M *	本明朝		?	X	(明B)
平成明朝(平成)	平成明	平成明	?	X	(明L)
平成角ゴ *	平成角ゴ	平成角ゴ	?	X	(ゴB)

Quick Timeムービー：MUGYの堀重章さん。

最初の画面にMUGYのエンブレムが表示される。



「House Mountain」：「家庭内ジェットコースター」。

ジェットコースターは階段を下り、廊下を走り、水洗トイレで終わり。合間に奥さん、お子さんのコースターに乗っている絵柄を挟み込んで臨場感を上げている。

「Classic Park予告編」：Classicが草原を恐竜の足を付けて走っていく。この歩行シーンはまず、作者が自分の歩行シーンを撮影し、重ねて足の絵を描いたという。本編では、Classicに牙が生えて手に食らいつく、というもの。強制イジェクトで助かる。

傑作は最新作品の「Macほんぼこ」。タスキの尻尾をつけた同じ筐体がいくつにも化けるといもので、最後はNECになるあたりが鋭い。LCで作るのはなかなか大変だとのことだが、会場は大いに湧いた。

ローカルエリアとコンピュータ：IMFの長土居正弘さん。



▲長土居正弘さん

Macとビジネスについての唯一の発表。東北は東京や大阪などの都市と比べて、仕事の「密度」が低く、顧客との距離(物的な)も遠い。こんな中でのコンピュータはどうあるべきか。コンピュータの能力は、人間の不得意な分野にこそ活用させるべきで、全てをコンピュータに入力したほうが良いという物でもない。現在、Excelを使ってシミュレーションをし

MMM特集

in Morioka Oct.22 '94

ているが、電子メールも導入していきたい。データベースとしてはFileMaker Proを使用している。6名の部署で10台のコンピュータを使いこなしているとのこと。

アップル社の新製品の紹介とデモ：Apple社青山さん

System 7.5の主な新機能を解説。漢字16Macなら16M必要。機能を付加すると、どうしても大きくなってしまふ、と苦笑。メモリが多く必要なのは、QDGXがメモリ食いであるからの由。デスクトップをスクリーンに投射してデモを行う。

ここで活用事例5に予定していたIMFの徳富亘さんが到着し、「小学生のためのワープロ検定合格法」

小学5年生の子供にPowerBook145BとQuark Xpressでワープロ検定を受験させ、合格するまでの奮戦記。小学生に読めない文字は、あらかじめ「よめね」という読みで辞書に登録しておく、



▲徳富 亘さん

作表なども登録しておく、などの工夫の他に、タイピングの上達度をExcelで統計的に検定し、自由研究として提出までしたという。「大変な親馬鹿で」との当人談だが、配布したハンドアウトにある、徳富”星一徹”の署名が似つかわしい。

予定を30分ほどオーバーし、17:00で全発表の終了となった。

(この原稿はAtAの五十嵐路子さんのペンによる実況中継です。こういう方がIMFにも一人ほしいところで..)

編集：Akihiro Sasaki
MMMロゴ協力：Naoko Sagawa

76, IMF



1994年10月22日。岩手県盛岡市。

我々は、この街で何やらあやしげな集会が開かれるという噂をキャッチした。それは、年に1度開かれる秘密結社の集会であるという。集会では、とある組織が新たに開発した謎の機械が披露されるとともに、結社による研究成果の報告を行なうという。

我々IMFはその真偽を確かめるため、諜報部員0094号を集会に潜り込ませた。果たしてこの秘密結社の目的とは？謎の機械とは兵器かそれともUFOか？0094号は無事帰還できるのか？今IMFは世紀の謎に挑む！

潜入

1000時。曇り。気温摂氏17度。私は集会が開かれるという建造物の4階に到着した。まだ秘密結社の構成員は姿を見せない。物陰に身を潜めて様子うかがう。しばらくすると、大きな箱をいくつも運ぶ構成員の姿が見えた。集会の準備らしい。盗聴した会話の分析によると、過去の集会において発生したトラブルを少しでも解消するために、早々と準備を始めたようだ。しかし、しばらく観察した結果、結局はトラブルっていたようだ。

どうやら構成員たちが「Mac」と呼ぶ機械の映像をプロジェクタで投影しようとしているらしい。最終的には投影できたようだが、当初は30万円の機械では投影できず、3万円の機械を使っていたようだ。なぜ安い方で投影できるのに高い方ではできないのだ。そして「Mac」と呼ばれる機械は何なのか。謎はますます深まるばかりである。

昼食

1200時。10名ほどの構成員たちが1階へと降りていった。どうやら食事をとるらしい。レストランはほぼ満席で、一般市民がくつろいでいる。そして、驚いたことに全員が同じものを注文した。食事を規制するタイプの信仰はいくつかあるが、カツカレーを食べ

る信仰など私は知らない。これは本部の分析^{注1}にまかせよう。

受付

1300時。構成員が集まり始める。岩手県だけではなく、青森、秋田、山形からも人が集まっている。今日は大がかりな集会ようだ。

ある構成員が、結社の首領らしき人物に「今日はSystem7.5がもらえるんでしょ？」と喋って会場へ入ってきた。その一言に首領はうろたえたようだ。首領たるものがうろたえる「System7.5」とは？どうやらこれが今日のキーワードのようである^{注2}。

おそらくこの「System7.5」というものが新たに開発した兵器なのである。是非ともサンプルを手に入れて、本部に持ち帰って分析したいものだ。

兵器？

1330時。なんとも不可解なものが披露された。これはまさしく世界征服の野望を実現するための兵器に違いない。「Classic」と名付けられた生物兵器、同じタイプのサイボーグとおぼしきものの映像。

さらには誰も触っていないのに勝手に演奏する（楽器の）キーボード。何ということだ、彼らはサイコキネシスまでものにしたというのか...。こうしてはいられない、一刻も早く本部に

注1 調査の結果そのレストランには3つのメニューしかなかったことが判明した。興味のある方のために書いておくが、その3つとは、カレーライス、カツカレー、ハヤシライス、である。

注2 それとも盗取したのはセリふの後半部分に対してだろうか...

帰って報告しなくては。しかし、まだなにか企んでいる節があるのも事実だ。仕方がない、もう少し様子を見よう。

宴会

1730時。集会場と同じフロアにある別室。ここで一体何が行なわれるのだろうか。遠方から来た構成員はどこかへを姿をくらましたようだが、地元及び東京から来た者たちが集まってなにかをやっている。どうやらこれは宴らしい。無事に集会が終わった打ち上げなのであろう。それとも、世界征服実現の前祝いか？

しかし、ここでもあやしげな機械が使われている。ひょっとしたら打ち上げではなく、新兵器販売のプロモーションか？

あまり観察ばかりしていると、正体を疑われる恐れがある。仕方がない、仲間を装って飲むふりをしよう。これも仕事だ。本当は酒など³³飲みたくないのだが.....

2次会

1930時。なんと、神社の境内で2次会を催すというではないか。ギャルはいないのか、カラオケはないのか！

.....いかん、酒を飲み過ぎて、心にもないことを口走ってしまった。

ここでも新兵器の品評会だ。Dr.TはDuo280とDuo280cを並べて、性能評価を行なっている。かたやもう一人のドクターDr.Sは、HP-200LXという兵器で武装し、集まった者達に購入を進めている。これがトカレフでなくてよかったと思う。さらに恐ろしいのは東京から来た川○氏である。22万円もするという特注の「写るんです」³⁴を持参したのだ。

洗脳

気がつくとも私も秘密結社の仲間入りをしていた。きっとビールの中に薬が仕込まれていたに違いない。しかし今となってはどうでもよい。Macが使えて幸せなのだから...。さらばだ.....

注3 調査によると、この日一番酒を飲んだのは0094号と判明した。
注4 本当はちゃんとしたカメラだったらしい。

残念なことに、0094号は洗脳されたようである。しかし、それは彼自らが望んだことだったように思えてならない。

0094号が失踪したあとに、例の集会に参加した何名かの事後報告を入手することができた。ここで公開することにより、二度と0094号のような不埒な者を出さないようにしたいものだ。

しかし、本当に「Mac」で幸せになれるのだろうか？もうしそうなら.....

ようやく幕張の事務所迄たどり付き、遠隔コメントで恐縮ですが大変お疲れ様でした。

あのような盛大なConfarenceがみちのくの岩手で行われる事は、ひとえに野村さんの人徳によるものとApple社として感謝しております。

また、盛岡、山形、秋田から遠路参加されたU.Gの皆さん本当にお疲れ様でした。

山形の白石さんと岩手の白石さんには、宿題を差し上げましたがいずれ立派な回答が頂けるものと思っております。

つたない解説を最後まで聞いて頂いてありがとうございます。LC630は無事倉庫に届きました。

それではまた皆様にお会い出来る事を楽しみにしております。

青山

東北ユーザーグループ・コンファレンスという名称は、参加して納得しました。

IMFのもついい雰囲気が出ていたと思いました。これは、真面目だけれどくだけていて、かといって内輪にこもらないで参加者に開かれている、という私の印象です。

弘前や山形や秋田のユーザーグループで活動されている方々を知ることができ、その作品はとても楽しむことができました。

MUGYの榎原さんの一連のQuickTimeムービーによるパロディ作品、は作者自らのツボを押さえた解説も有り、またぜひ続編を見たいものです。

盛さんのレジュメは個人史になっていて、音楽に興味のある方であればさらに楽しめましたね。中さんは本当に残念でした。みなさんに共通していたのは、他人を楽しませ、自分も楽しむという点ですね。これは納得。

川村渴真さんの話を十分聞けなかったのが残念でした。これは野村さんから後日伺いたいところです。徳富一徹さんの発表が聞けずに会場をあとにしました。レジュメは林檎にのせてほしいですね。

最後に、野村さん、工藤さん、準備された方々お疲れ様でした。

佐々木 明宏

子どもが小学校生活を 有意義に過ごすための 親のいくつかの作戦

—忘れ物をなくそう—

小中学校時代に忘れ物点検とかしたこと（されたこと）あると思うんですが、これは、するほうもされるほうもあんまり、いいもんじゃありません。でも、学校現場では、行ってない学校（学級）はかなりの少数派でしょう。

なんと今では、高校で忘れ物点検の表やグラフをはっているところもあるそうです。

いずれ、忘れ物はしないほうがいいに決まっていますが、これをなくそうとするのは、かなり骨の折れることです。しかも、やり方によっては、登校拒否されかねなかったり、子どもとの間に溝をつくりかねません。

かといって、野放しにしておくと、あんまりいいことはありません。第一忘れ物を平気な子どもにしては、その子がかわいそうです。

さて、小学校のうち、1年生の特に1学期は、忘れ物がほとんどありません。それは、なぜでしょうか。

小学生以上のお子さんをお持ちの方は分かると思いますが、これは、1年生の親が道具をそろえるのを手伝ってくれるからです。

小学校に入る前の1日入学の時などに、「お子さんの道具は、しばらくは親がそろえてあげてください。」と指導されるからです。「そうしないと、一人だけ道具がなくて、お子さんが惨めな思いをしますから。」などと言われれば、親はしばらくは忘れ物がないように心を砕いてくれます。「すべて親がするのではなく、いっしょにお手伝いのつもりでそろえてあげてください。ひとりでするときは、おおいにほめてあげてください。」と指導してくれる学校は良心的ですね。ま、大抵はそうでしょうが。

まず、忘れ物をしない子どもにするのには、この1年生の1学期がチャンスです。

1年生の1学期は、自分が1年生になった喜びが大きく、どんなことでもやる気が湧いてきます。「さすが1年生」が殺し文句になるんです。



この時期に、よいことをしたら必ず褒められる、という経験をつんでおくと、子どもはどんどん力をつけていきます。ですから、入学して最初の1週間くらいは、前日の晩、夕食のあとなどに、いっしょに道具をそろえてあげます。

最初の1週間は、午前中で帰ってきますから、そろえる道具も少ないですから。最初の1日はそろえ方。

たぶん学校でも指導されてきますから、どんなそろえかたなのか子どもに聞きながらそろえるといいでしょう。そうすると学校の様子も聞けますしね。

子どもはよるこんで次の日、先生の言うことをよく聞いていると思いますよ。

そのときですね、子どもがよく聞いてなかったり覚えてないときは、怒っちゃいけません。覚えてないのがふつうなんです。そのために担任の先生は、次の日の予定をお便り（学級通信あるいは

連絡帳）に書いているはずですから。

1年生のうち（その後もずっとですが特に1年生）は、お便りの類は要チェックです。子どもの話ばかりでなく、担任（学校）の考えや学校の様子が分かるからです。

子どもは自分の都合のいいことを中心に話しますから…。

さて、話しをもどします。

道具のそろえ方がわかってきたら、今度は子どもにやらせます。

「もう自分でできるよね。」とか「自分でやってみる？」とか言ってね。

まあ、大抵の子どもは「ほくがやる

よ。」とか「私一人でそろえたい。」と言うはずですから。そのときはすかさず「えらい、さすが1年生。」と言って抱きしめてあげましょう。

そんな様子はお便り帳に書いておきましょう。担任の先生が褒めてくれます（子どものことを。たぶん。）

担任の立場に立つと、

このお便り帳の情報はとても重要です。1年生の子どもについてはどんな情報でもありがたいものです。

また、いつも文句ばかり書いてくる親にはなかなか真実を伝えられなくなります。協力的なことを書いてくれる親にはちょっとしたことで知らせやすくなります。

教師も人の子ですから、その辺を考えておつきあいしてください。（これは、私の甘えですが…）

また、余計なことを書いてしまいました。

さあ、順調に自分で道具をそろえられるようになったら…、おや、もう紙面がありませんね。

では、この続きは、機会がありましたら…。

Write&Edit by M.Satoh



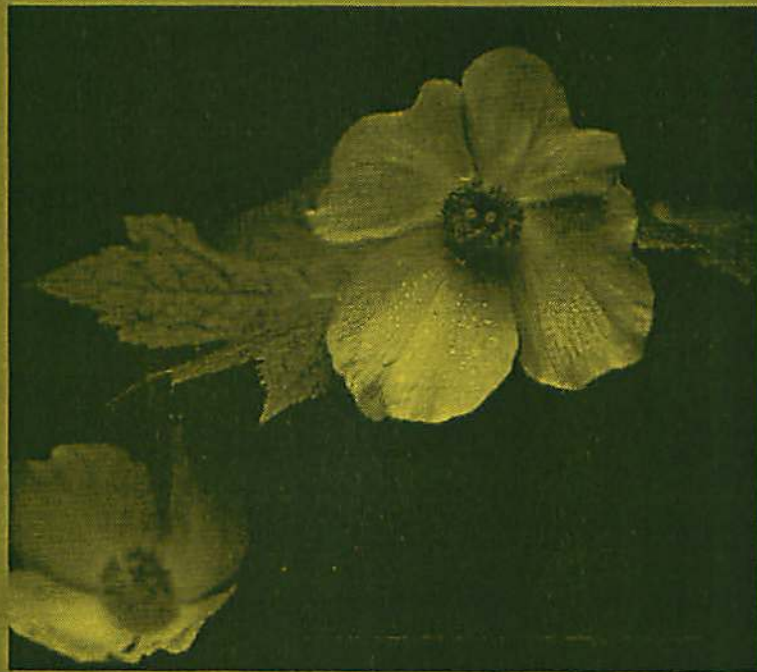
今年の花の山歩きは、春に八甲田に行ったほかは早池峰が二回で、あとは八幡平が主でした。

その八幡平に行ったとき、大した収穫もなく足取りの重い帰り道、行くときには気が付かなかったシラネアオイが、藪の中からこちらを見ているのにバツリ出合いました。暗い背景に花弁の淡いピンクがはえ、さらに朝露がしっとり付き、その美しさに思わず



はっとしました。これまで幾つかの山でシラネアオイに出会いました。秋田駒ヶ岳では急斜面に群落が有り、日当たりが良く元気はつらつで、色が濃

く、花弁が尖っていました。しかしこの日陰のシラネアオイは色が淡く、花弁が丸いので、とても柔らかく優しげに感じます。先日、ある雑誌で水越武氏の写真特集の片隅にシラネアオイの写真があり、木漏れ日の逆光でピンクが美しく写っていたのがとても印象的でした。その素晴らしいシラネアオイも花弁が丸くなっていました。



私の Mac Life



by 村上宏文

私が初めてパソコンにふれたのは、今から10年も前の高校2~3年のことでした。それは、NECのPC-8800シリーズでした。それを使って、シミュレーションゲーム（フリートコマンドーという第2次大戦を模した海戦ゲーム）をやるのがせいぜいでした。それでも、1度などは学校をサボって、朝の10時ころから夜の7時ころまでパソコン相手の戦略に熱中していました（それにしても、開店から、閉店まで遊んでいたのに、よく店の人は文句も言わなかったものだと思います。きっと、呆れていたんでしょうが、当時のシステムイン岩手のやさしいお姉さんに感謝！）

このような体験があったにもかかわらず、もともと文科系人間だった私はMS-DOSの世界に恐れをなし、パソコンとはこういうものなのかと思ひ込んでしまったのです。これは、私だけに限らず、多くの人が感じていることだと思います。

【MACとカヌーの出会い】

大学ではほとんどパソコンとは縁のない生活を送りました。文科系で社会科学の専攻だったのでキーボードに触れることも、あまりありませんでした。

そんな私が郷里岩手に戻り、高校教師になったのでした。その2年目に、高校の友人、山本淳君より、マッキントッシュというパソコンが安くなって買い時だという話を聞かされたのでした。「初心者にも使いやすいよ、」とのことでしたが、パソコンには高校のときのイメージがあり、乗り気がしなかったのです。

そんなイメージを吹き飛ばしてくれたのが、木津屋の杉村さんを訪ねたときでした。スイッチを入れた時の「ジャーン」という音を聞いただけでなにかワクワクしてきたのを覚えています。そこで、ExcelとSuper Paintを

動かして下さいました。もちろん、Excelのような表計算ソフトなんて、初めての存在でしたし、セルに入力された数字の計算がこんなに簡単にできるなんて、夢のようなことでした。生徒の成績処理がだいぶ楽になるな、と感じました。また、キーボードアレルギーであり、DOSのコマンド嫌いの私にとってMacのプルダウンメニューとマウスの組合せはものぐさな私にとって、非常に使いやすいものでした。また、文字のサイズ変更や、フォント変更なども自在にでき、その度にセルサイズが自動で変わってくれるので、なんて、賢いんだろうと思いました。また、Super Paintはといえば、自由に円やら四角が描けるし、投げ縄ツールでは、選んだ図形がマウスの指すどおりに動いてくれるのです。マウスを速く動かせば、少し、遅れて図形が追いかけてくる様子に何とも、いえぬ、いじらしさを感じてしまいました。

こんなMacの世界を見せられた私は、すぐその場で買う契約をしてしまったのです。機種は出たばかりのClassicでした。メモリは2Mb、内蔵ハードディスクは40Mbでした。値段は安くならだした頃で、しかもエントリーマシンということでしたが、決して安い買い物ではなかったことを覚えています。最初の衝動買いというもの



でしょうか。また、その場で「岩手MAC友の会」とパソコン通信の「盛岡市BBS」に人会したのです。

しかし、待てど暮らせど、Classicは来ないのです。杉村さんにも大変ご迷惑をおかけしましたが、11月頃注文して、届いたのが翌年3月頃だったと思います。本当かどうかはわかりませんが、当時は湾岸戦争が勃発しており、「Macはベルシャ湾に持って行かれて、日本には入ってこないらしいぞ」なんて言われていました。かくして、湾岸戦争反対者が1名増えました。

Macがとうとう来ました。Classicのその一体型のシンプルなボディ、コンパクトにまとめられたキーボード、かわいいマウスと、デザイン的にも優れたものでした。「画面が小さくても、白黒でも、処理スピードが遅くたっていいじゃありませんか。それ以上に、Macは、別の世界を、夢を与えてくれるものですよ。」そう語りかけてくれるコンピュータでした。

「類は友を呼ぶ」といいます。その頃、岩泉高校小川校にはStuart Harris（スチュアート＝ハリス）というALT（英語指導助手）がいました。彼はTENNESSEE（テネシー）州のChattanooga（チャタヌーガ）（南北戦争時代、北軍勝利の戦地として有名）の医学生でしたが、作家になりたくて、休学して日本に来ていました。彼はPlusとImage Writerを秋葉原で買い、Microsoft Wordで小説を書いていた。内容はShakespeareの“THE TEMPEST”を現代版に置き換えたものだと言っていました。

MACとの付き合いは、大学以来だそうで、主にレポート書きに使っていたそうです。IBM機と比べてMacのアイコン表示、プルダウンメニュー、マウ



ス操作は格段に使いやすいと誉めていました。そんな彼とはMacをはさんで親しくなっていました。

Macのアプリケーションを使っていると(特に海外のもの)、思わず楽しくなってしまうものが多いですね。アメリカ人の発想の自由さ、ユーモア感覚の豊かさ、子供の遊び心、生き方の楽しさまで伝わってくるようでした。例えば、Kid Pixは、単なるお絵かきソフトを越えています。こういうものは、悲しいかな日本人の苦手とするものようです。After DarkのFlying toasterを見たとき、Harrisは「It's a California joke!」と言って手を叩いて喜んでいましたが、我々が、「It's a Japanese joke!」と言えるようなものができるのはいつのことでしょうか。(それはもしかして、アップグレードサービスもせずに、半年毎に新製品を発表してきた某メーカーか、明日はどうなるかわからぬ日本の政治家のことでしょうか。)

「Macユーザーは自然が好き」。IMF会員の友達にも自然が好きと言う方は多いようですが、私もアウトドア派です。Harrisもバックパッカーで週末は、岩手山登山、マウンテンバイク担いで宇霊羅山(うれらさん)(龍泉洞の近く)へ、シェラフ持って小木海岸へと行動的でした。自然豊富な岩手が好きでよく、「Mountain goat(かもしか)を見たよ。」とっていました。そんな彼の最も好きなのがcanoe(カヌー)なのです。家族全員がカヌーをする中で育ったという彼の影響を受け、私も始めることにしました。これも、週ればMacを通しての出来事と言っているのかも知れません。良く行くのは県内の湖です。春は新緑が、

夏は湖面を渡る涼風が、秋は高い空と紅葉が美しいものです。昼食を用意して、カヌーの上や、景色の良いところに上陸して食べたものでした。2~3人乗りでしたので、一生懸命漕ぎ続けるといよりは、手を休めて、雑談をしたり、昼寝をしたりするほうが多いです。

「初期不良品という事実」が本当かどうかは解りませんが、私のMACはトラブル続きでした。91年3月に購入し、7月に、時々フリーズするようになってしまいました。そのうち、立ち上がらなくなり、とうとう、画面にサッドマックが出てしまったのです。こっちの方が泣きたい心境でした。慌てて木津屋さんに持ち込み、マザーボードを交換してもらい、我がMACは蘇ったのでした。しかし、災難は続きます。この後、キーボードとマウスも交換しました。(別に、乱暴な男ではありませんので誤解のなきよう)

「さあ、アップグレードだ」というわけで、私のClassic(メモリは2Mb、内蔵ハードディスクは40Mb)は現在Classic2(メモリは10Mb(RAM Doubler使用で20Mb)、内蔵ハードディスクは40Mb、外付けハードディスクは700Mb1台、100Mb1台)へと、変身したのです。周辺機器もStyleWriter(プリンタ)、ScanJet2C(スキャナー)と整備されていきました。この頃は、貯金通帳を見るのが恐かった時代です。

「さあ、MACを何に使おうか」という問題ですが。私は、高校の世界史の教師です。本は好きですし、当然たくさん読まなければいけないと考えています。そういう歴史の資料の整理にどう使えるのかなと考えています。

そこで、OCRのソフトを使っていますが、英文の方はなんとか使いやすいし、解析率も高いのですが、日本語の方は文庫本や新聞クラスの文字サイズではうまく読み取ってくれません。読取スピードも遅く、手直しをしていると、最初からキーボードで打っていくのと時間的に変わらないようなときもあります。ですから、小さい文字の原稿は拡大コピーをかけてからスキャンしています。効果的なのは、定期考査の試験問題作りです。今までは、1つの学年当たり、3日ぐらいかかっていたのが、OCRを使うことで1日ぐらいに短縮されました。高い買い物でしたが、何とか実用に耐えているようです。その他、英文を機械翻訳するためにも使おうとしたのですが、翻訳ソフトの方が大きすぎて時間がかかりすぎ、自分で訳した方が早いようです。Classic2の手にはあまるようですが、期待していたほどの、翻訳精度では無いようです。

その他、パソコン通信も良く利用しています。友人との電子メールのやりとりや、本やCDの注文など、私のように山の中に住んでいて、時間が不規則な者としては、非常に便利です。

「MACで世界が広がる、人の輪が広がる」MAC購入当初は何もかもが試行錯誤で、多くの先輩方(特に野村会長さんを始めIMFの方々、そして高校以来の友人である山本君)には本当にお世話になりました。年齢も職業もまちまちで、普通なら、お互い知り合うこともないであろう人達と交際できるIMFの例会は、私には、大変楽しい時間です。話されていることの大半が解ったらもっと楽しいんだろうと思いつつ、時々お邪魔しています。皆さん、MACのことはもちろん、その他の分野でも話題が豊富で、個性的な方が多いのではないのでしょうか。これからはよろしく教えていただきたいと思っています。最後にMACは個性を表現でき、英語の勉強にもなるので、生徒たちにも是非触って欲しいという、教師らしい言葉で終わりたいと思います。

ブラジル紀行記(2) by阿部好晴

前号に続き、一昨年(1992)の8月の渡航に基づいてブラジルを紹介したいと思います。

国民

人口は1億5,000万人弱で南米大陸の人口の半分に当る。

ブラジルは人種のるつばで、白人系55%、黒人系6%、黄色人系11%、混血38%の構成になっている。100近い国からいろいろな人種、民族が集まり混血を繰り返してきたので、白人、黒人、黄色人と分かれてるのではなく、アナログ的に連続的に混じっている。

友だちの日系ブラジル留学生在が日本に来て最初にびっくりしたのは、皆同じ皮膚の色で、同じような顔をしていることだったと言っていた。これはブラジルで生まれ育った人が一様にびっくりすることだという。100近い国からの移住者が集まり、混血が繰り返されたブラジル人から見ると、単一民族で一つの国家を構成していることが奇妙で仕方ないらしい。

最初の入植者は16世紀のポルトガル人だが、単身で渡ったので、原住民との混血が行われ、ついで砂糖産業の労働力としてアフリカから連れて来られた黒人との混血が加わった。

19世紀に入り、イタリア、スペイン、ドイツ、フランス、アラビア、スラブ人といった欧州、中近東から諸民族が大洋を渡り、20世紀になって東洋から日本、韓国、中国人、その他世界中の民族が移り住んだ。こうした幾つかの段階を経て100近い民族が混合する今日のブラジルができた。

以上のような国の成り立ちから、人種差別意識は極めて希薄な感じがする。

ただし、南のほうの、、、という町では、その住民のほとんどがドイツ人で、他の国の人はなか

なか入り込めないというような排他的なところもあるとのことだ。

ブラジル国民はアミーゴ(友人)と言ってすごく友達を大事にする。友人優先主義といってなによりも大事にする。

識字率が40%位。小学校に入っても貧しいから働きに出され学校に行けなくなる。

学校は数が少ないので2~3部制で運営されている。

日系人は午前中は現地の普通の学校に通い、午後は日本人学校に通う子が多い。

日系人

1908年笠戸丸で791人が移住して以来たいへんな苦勞をして現在の地位を築いてきた。日系人は130万人位で、全人口の1%弱にしかならないがブラジルの各界で活躍してる。サンパウロ大学は日本と言えば東大のようなブラジルのトップレベルの大学だが学生の12~15%が日系2世、3世の日系人とのこと。法曹界、医学、技術分野においても、日系人の進出は目覚ましい。

かつて日本からの農業移住者達は野菜や花の種を祖国から送って

もらい、大地に蒔いていった。それまではブラジルには野菜の類はほとんどなかったといわれる。他からの移住者達が、小ぶりの店やレストランを次々と開くなかで、日本からの移住者達は汗まみれになって土と取り組んだのである。「そのおかげで、私達も毎日野菜が食べられるようになった。」とブラジル人達は一様に口をそろえ話す。

サンパウロのクリーニング店はみんな日系人とのこと。この辺にもきれいな日本人の特徴が表われてるような気がする。

日系人の心の支えは何ですかと聞いたら、それは日本ですよと言う答えが帰ってきた。日本が国際的に頑張ってる姿とか、いずれ日本そのものとのこと。私がお世話になった林さんは日本から週刊紙とか、中央公論のような月刊誌などを取り寄せて読んでいる。また、日本のテレビの主な番組は貸ビデオ店に行くと、1週間遅れ位で借りて見られるので、日本の主な情報は手に入る。かえって外から見ているせいか、日本の現状をよく押さえてるようだった。

岩大留學生は真面目で謙虚で、



私たちのために日本の唄を歌ってくれた子供たち

30年の前の日本女性を見てるようだと言っていた。これは中国や韓国などの留学生も同じだと言っていた。

日系人は日本にいるときと同じように別の人種の人達のことを外人と呼んでいた。自分達のほうが外人なのに面白いと思った。

ブラジルで仕事を二つ見つけてきた。

一つは日本人学校の先生、もう一つはフェイラ（市場）の出店の主人。各地でフェイラが開かれるが、その権利を3~4ヶ所分位とトラックを100万円位で売ると言う人がいた。売って日本に出稼ぎに行くとのことだった。

3年位前は日本への出稼ぎブームで、いろいろな職業の人が日本に流れた。銀行の支店長や医者などの社会的地位の高い人達も、働きに来てると聞いて驚いた。

そういうことで、日本人学校の先生が足りなくなって募集していた。授業を見学したが、可愛い子が耳にピアスをして、日本の唄を歌ってくれた。

現地人

冬に桜が咲くような気候だから働かなくても食べ物さえあれば凍え死にすることはない、セーターと毛布一枚あれば何とか生きていけると思った。だからque sera sera（ケセラセラ）でその日暮しができる。この傾向は、北、つまり緯度（南緯）が低い地方の人ほどその傾向は強い。

この人達は真面目に働くのが善とか、尊いとかという規範はないそうだ。一生懸命働いていい暮らしをしようという考えは薄いそうだ。

治安

経済が悪いのでよくない。ひたたくりは日常茶飯事。車に乗ってて、信号待ちをしてると窓から手が入ってきて、ネックレスをひっ

たかれるということもあるそうだ。リュックを背負うときは前からだっこするようにしないと、後ろからナイフで切りつけられ、ものが取られるとのこと。ウエストベルトも危ないとのこと。

車にピストルを乗せてる人も多いようだ。

私がお世話になった林さんのお宅では家の周りに柵を作り、夜になるとドーベル犬のような猟犬を3、4頭放し、自衛していた。リオデジャネイロが一番悪い。

どうしてあの豊かな国土を持つブラジルで都市のスラム化が進むか疑問だったのですが、その答えがEM農法の本に書いていた。

ブラジルは病害虫が多いので、現地の農民の間では、今でも焼畑方式がとられている。しかし焼畑は数年しか持たない。栄養分もなくなり、病害虫も増えてくると、次の土地を探して移動する。そのためだんだんと奥地に入っていくとはならなくなる。その結果、農業従事者は住むところが固定しない。子供の教育も十分にできない。

また奥地へいっても、農業がうまくいくとは限らない。失敗して逃げ帰ってきた人達は、食べていけないので、結局スラムに住みつ

ことになる。農業技術の未熟さからくる貧困だったのだ。

政治

政治家や政府の役人は汚職、賄賂が普通で皆私腹を肥やすのに一生懸命で、あまり国民のことは考えてないようだ。議会は政争に明け暮れし、政府部内には汚職がはびこるなど、ブラジル政治の現状は国民の期待を裏切るものとなっている。日本に来ている日系人だけでなく、ヨーロッパ、アメリカへと、止まるところを知らない頭脳流出や中間層の出国の背景には、経済情勢の悪化や社会不安だけでなく自国の政治情勢に対する失望感もあるといえそうだ。現に私の友人のブラジル留学生は女性だが、二人とも日本の企業に就職した。

ただつい最近の新聞によると、何とかという大蔵大臣が就任以来、インフレが数%に収まり、今度の選挙でその人が大統領になりそうだから、ブラジルも良い方向に行くものと期待したい。

（以下次号に続く）

文、編集 阿部好晴



いろいろなものが安く売っているフェイラ（市場）

水虫をなおしませんか？

佐藤雅子

今年のような暑い夏は、日光によるやけど、アセモ、飛び火、こじらせてしまいグチュグチュになった水虫の患者さんたちでこの皮膚科也大混雑でした。そして、秋風が吹いてくるとだんだんと患者さんが減ってきて、冬場の皮膚科はおだやかな日々をおくることになるのです。さあ、もうすぐ冬の入り口、今のうちに水虫のお勉強をいたしましょう。

水虫ってなに？

皮膚に寄生するカビには色々ありますが、その代表的なものに白癬菌という一群があります。この白癬菌による皮膚病を総称して白癬（はくせん）といいます。この白癬は身体中のどの場所の皮膚にでも感染を起こします。この白癬は昔から民間で次のようによばれていました。

ミズムシ 足の裏、趾の間、手のひら、指にできる。
タムシ、ゼニタムシ 股、臀以外のうぶ毛のはえる皮膚に。
インキン 股、おしりにできる地図状のもの。普通陰囊にはできない。
シラクモ 頭の皮膚にできるもの。

このように、夫々の場所によって呼び名が異なると言うことは、昔の人々

が、その場所、その場所による皮疹の特徴をとらえていたといえるでしょう。

カビ（白癬菌）は皮膚のどこにとりつくの？

皮膚の最も外側の層、角層はケラチンという蛋白質でできていて、厚さは顔や腕では1ミリもありませんが、手のひら、足の裏ではとても厚く、かかとでは1センチにもなったりします。爪や毛も皮膚のケラチンよりもっとかたいケラチンからなっています。

カビ（白癬菌）は、このケラチンからだの中にとりこみ、これを消化しながら増え、角質のなかを足をのぼしながらどんどんおかしやります。皮膚の深い層には入り込みません。又、皮膚だけでなく、ケラチンでできている爪や毛髪もその標的となり、慢性の病巣となってしまいます。（皮膚科医は、この角質をピンセットでとって顕微鏡でしらべ、カビがいるかどうかを参考に診断します）。湿り気は、水虫のカビをよろこばせ、増殖をうながします。

水虫の症状は？

さきほど幾つかの白癬の俗称をあげました。そのなかで今回は水虫にしばって話をすすめましょう。

水虫には三つのタイプがあります。

ユビの股タイプ（趾間型）

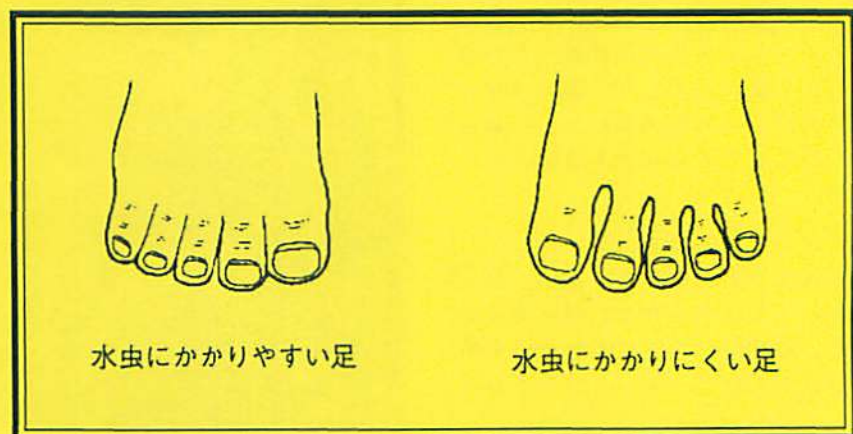
趾（あしゆび）の間にくるタイプです。ちょっと線状に赤くなるだけから、ふやけて白くなる場合、またみずぶくれになって裂けてきたり、ただれて皮がむけたりします。この型の水虫になる人の趾は、太くて趾の間に隙間がないことが多いようです。

みずぶくれタイプ（小水疱型）

足のうら、土踏まず、足のふちに小さなみずぶくれ（水疱）ができます。中の液体には水虫のカビはいないので、このツユでうつるものではありません。このタイプの人水虫のカビに対する反応が強くて炎症がおき水疱ができるので、かゆみが強いと考えられます。

ガサガサタイプ（角化型）

足の裏全体の皮が厚くガサガサとなり、時にはひびわれれます。前の二つの





型とちがって夏よりも、乾燥する冬場に悪く感じる人が多いようです。何年ものあいだ放って置いた方にみられ、同時に爪も侵されていることがよくあります。かゆみがないため、放置して他の人への感染源にもなります。

明らかな症状を持たず、菌だけをもっていて発症しない人もいます。

もうひとつ大事なことがあります。あなたが水虫と思っているのは本当に水虫なのでしょうか？ 水虫に似ていて実は全く治療が異なる皮膚病があるのです。それを診断するのも皮膚科医の大切な仕事です。

水虫が突然悪くなるのは？

暑い夏の季節には、足をはれあがらせ股のリンパ節まではらして受診する患者さんがいます。これは水虫のカビの作業ではありません。水虫がこのように急に悪くなる要因には次のことがあります。

細菌感染 よく趾間型にみられます。水ぶくれの中に黄色いウミがたまり、まわりまで赤くはれます。高温多湿の水虫増悪環境は細菌もつきやすいのです。

かぶれ 薬が適切でない場合、また最近ではアロエなどでかぶれる人がみられます。

副腎皮質ホルモン 炎症をおさえる働きがあるので、使いはじめはよくなったようにみえます。続けて使ううちカビは大暴れして、とんでもないこ

とになります。この薬をしようかと判断で使うのはやめたほうがいいでしょう。こうなったら、一刻も早く専門医の治療を受ける必要があります。

水虫はどうやってうつるの？

湿り気のあるトイレのスリッパや長靴、風呂場、プールの足ふきマットではカビが足にとりつくチャンスがうかがっています。もし、接する機会があったならなるべく早く足を洗いましょう。また、水虫の足をさわった手で、顔をさわると、そちらにもうつります。私達医師や看護婦は患者さんの処置をしたあとは必ずよく手をあらいます。手にカビがついても定着しないように直ちに手洗いをします。

水虫の治しかたは？

さあ、待ち望んだ治療です。水虫はなおらないというチマタの噂はまちがいです。

水虫をなおすためのポイントを次にあげましょう。

1. 本当に水虫でしょうか。診断は確実に。
2. 常に清潔に。普通の石けんでいいのです。毎日、足の趾（ゆび）の間まで意識して洗いましょう。ただし、やさしく。
3. 風とおしがよく、かわいた状況を保つように気をつけましょう。靴より、サンダル。サンダルより下駄。桐下駄は汗を吸ってくれます。

4. 毎日かかさず薬をつけましょう。今、色々なタイプの外用薬があります。液剤、クリーム、粉などです。最も無難な軟膏は、残念ながら市販品にはないようです。ガサガサした角化型にはクリームでよいのですが、時にはますます乾くことがあります。ジクジクしたところ、水疱がはげしいところには、液剤、クリームはむきません。

見た目にすっかりよくなったと思う状態になっても、それから3か月はつけないとよくなるといわれています。再燃も再感染もあるのです。

5. 外用薬だけでは治らない場合もあります。爪がおかされたり、毛の中にまで入ってしまった場合です。

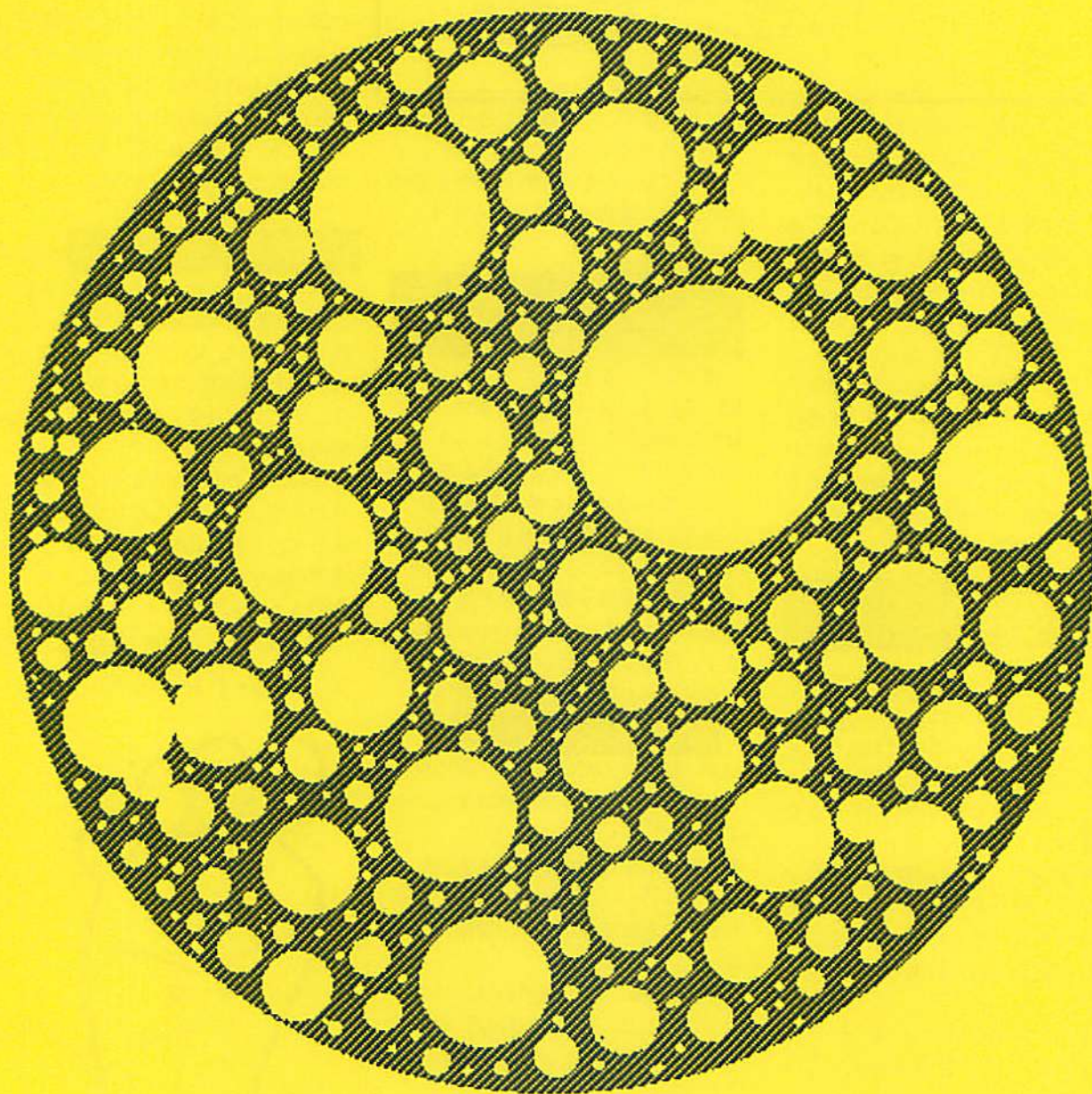
最後のポイントです。

皮膚科は先にお話ししたとおり、夏場は冬の2倍の患者さんと混みあいます。秋の涼しいうちに、こじれる前の水虫を皮膚科専門の医師にみてもらいましょう。そして、日常の注意とともに手当てのこつを何度か通ううちにおぼえ、夏場に水虫の急性増悪をおこさないようにそなえておくことです。根気があって、まじめに取り組み、そして素直で明るい性格の患者さんは、すでにそのようにしてよくなっています。

この冬、水虫治療にとりくんでみませんか？



林檎ギャラリー



By 瀬川昌男

編集後記



今年も皆さんの協力でMMMが開催できました。来年の開催がどうなるかは神のみぞ知る。それより、今年の忘年会が気になるなあ。

野村

ひさしぶりの林檎の編集でした。MMMはやはり年に一度の楽しみです。濃いイベントですね。

佐々木

今回は書き始めたら止まらなくなって、尻切れトンボでした。いってみれば”専門内”ですから、書きにくいところもありました。

鱒沢佐藤

今回は、余裕を持って原稿が間に合いました。

阿部好晴

酔っぱらって何も覚えてないなんて書けないからなあ...

工藤

皆さんの絶大なご協力により、この32号を発行できました。

MMMでは素晴らしい発表がありました。次号からはMacでの「こんな使い方もあるよ!」的な原稿を募集します。すでに徳富前編集長から原稿を頂けることになっております。ご期待下さい。

佐藤

村上さん原稿書いていただいたはかにりんごジュースまで差し入れありがとうございました。編集会議でみんないただきました。

杉村

原稿のご協力ありがとうございました。その段階で、気が付いたのですが次回からは、出力を、統一して見たいな〜!・・・と思いました。

上村

会員名簿

浅田 昌稔	IMF035	北上市	谷口 和美	IMF221	盛岡市
浅野 恵治		宮城県	千葉 智彰		玉山村
		仙台市	千葉 浩保	IMF126	盛岡市
阿倍 富士男		盛岡市	土村 中	admin	盛岡市
阿部 好晴	IMF203	盛岡市	寺田 明功	IMF068	青森県
飯岡 史朗	IMF224	盛岡市			弘前市
池内 達		盛岡市	照井 芳夫	IMF026	花巻市
池田 学	IMF114	千葉県	遠山 明人	IMF200	盛岡市
		浦安市	徳富 亘	IMF015	花巻市
		盛岡市	苫米地 怜		青森県
石田 宏		盛岡市			八戸市
一井 誠	IMF122	盛岡市	豊間根 道子		盛岡市
伊藤 光司	IMF077	花巻市	永澤 幸雄	IMF118	盛岡市
祝田 明子	IMF227	盛岡市	長土居 正弘	IMF087	盛岡市
宇佐美 公生	IMF228	盛岡市	西島 光茂	IMF017	盛岡市
大河原 清	IMF021	盛岡市	根本 聡彦	IMF042	北海道
大木 哲	IMF206	盛岡市			札幌市
沖野 覚	IMF044	二戸市	野村 行憲	IMF000	盛岡市
小原 康正	IMF222	宮守村	福田 健次	IMF005	盛岡市
鎌田 五百枝	IMF213	盛岡市	藤澤 義栄	IMF209	花巻市
神 達宏		盛岡市	藤村 洋	IMF028	盛岡市
菅野 研一	IMF211	宮古市	古川 裕一	IMF225	盛岡市
菅野 卓矢	IMF006	盛岡市	堀田 佳夫	IMF233	盛岡市
木村 栄子	IMF120	盛岡市	本多 健一郎	IMF025	盛岡市
工藤 聡	IMF094	盛岡市	三浦 吉範		盛岡市
熊谷 朋也	IMF008	盛岡市	村上 宏文	IMF099	岩泉町
小林 隆	IMF212	盛岡市	村上 弘行	IMF049	盛岡市
小松 寿夫	IMF102	宮城県	室橋 正	IMF208	新潟県
		仙台市			村上市
近藤 英一	IMF226	紫波町			花巻市
斎藤 秀一	IMF109	盛岡市	本館 康司	IMF013	花巻市
笹川 順子		盛岡市	柳田 久弥		稗貫郡
佐々木 明宏	IMF088	盛岡市			石鳥谷町
佐々木 幸司	IMF033	盛岡市	藪 敏裕	IMF214	盛岡市
佐々木 雄久	IMF202	岩手町	山本 淳	IMF034	盛岡市
佐々木 文雄		紫波町	吉田 新二	IMF020	盛岡市
佐々木 光夫	IMF121	大槌町	渡辺 浩志	IMF069	秋田県
佐々木 吉信	IMF215	盛岡市			能代市
佐藤 顕	IMF093	宮城県			
		仙台市			
佐藤 雅子		盛岡市			
佐藤 学	IMF119	宮守村			
佐藤 護人	IMF010	盛岡市			
佐藤 安男		盛岡市			
渋谷 芳三		盛岡市			
白石 隆	IMF039	盛岡市			
白沢 道生	IMF207	盛岡市			
菅原 忠雄	IMF124	花巻市			
杉村 栄一	IMF036	盛岡市			
杉村 峰秀	IMF113	花巻市			
鈴木 裕之		盛岡市			
瀬川 昌男		盛岡市			
平 靖夫		盛岡市			
高島 浩一郎	IMF012	盛岡市			
高橋 晃	IMF031	盛岡市			
高橋 浩幸	IMF091	盛岡市			

例会案内

12月 17日(土)
1月 21日(土)
2月 18日(土)

14:00 開場
15:00 例会
17:30 解散

場所:
岩手大学
教育工学センター

原稿募集

会員のそれぞれ得意の分野での知識や知恵の情報交換をしたいと思います。

また趣味の事や、エッセイも載せていきたいので原稿をお寄せ下さい。お待ちしております。

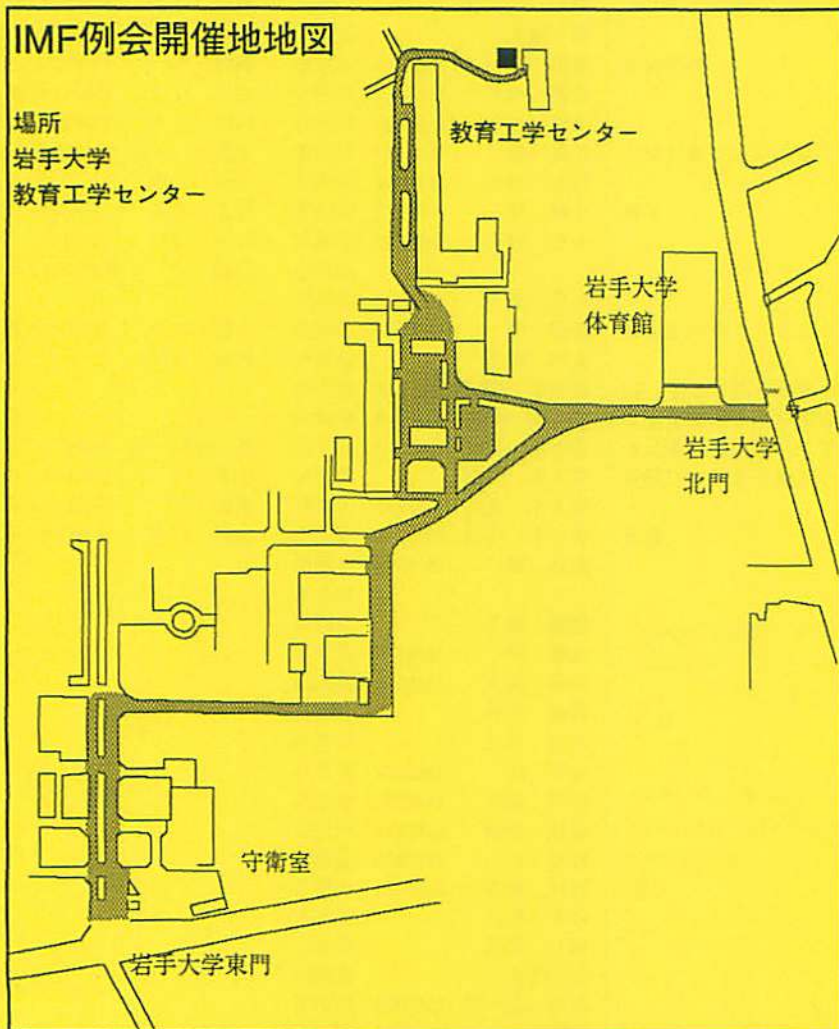


例会の後で、場所を変えて編集会議を行います。

お時間のある方ご一緒しませんか?とっても楽しいですよ!

IMF例会開催地地図

場所
岩手大学
教育工学センター



「林檎」32号は...

First Class	ATOK8
Color Magician	EG-Bridge
EG-Word	Freehand
HyperTerm	Illustrator
MacPaint	MacVJE
MacWrite	NinjaTerm
NISUS	PageMaker
PhotoShop	SoloWiter
StreamLine	SuperPaint

等で作ったものをPageMakerでまとめLaserWriter, Microlineでプリントしました。

「林檎」第32号 1994/11/19
編集長 佐藤 護人
発行 岩手Mac友の会
代表者 野村行憲

020-01盛岡市北松園 3-34-2

非売品